

和光



発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700番地

国立療養所 奄美和光園

電話(0997)52-6311 FAX(0997)53-6230

平成30年5月1日
(2018)

第109号

■表紙	1
■患者様の権利	2
■退職者挨拶	3～4
■新人紹介	5～7
■節分	7
■お花見会	8
■南大島バスレクリエーションに参加して	9
■施設訪問の感想文(奄美市立朝日中学校2年生より)	10～11

■職場体験学習受入	11～12
■防火避難訓練(夜間体制)	12
■園内合同歓迎会	13
■作業療法作品紹介	14
■2018年桜マラソンに参加して	14～15
■金子万寿夫代議士来園	15～16
■「ふるさと、奄美に帰る」展に寄せて	16～17
■NST News Letter	18～19
■平成29年度診療統計	19
■人事異動・和光園日誌・今後の行事予定・編集後記	20

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。



宮古崎ササントの夕日

基本方針

1. 入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療さらには感染予防・認知症対策に重点を置きます
6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます

患者様の権利

★人格を尊重した医療を受ける権利

誰でも、どんな病気でも、安全で良質な医療を平等に受ける権利と、個人の人格や価値観が尊重され、医療提供者との相互協力関係のもとで医療を受ける権利があります。

★医療に関する十分な説明を受ける権利

検査、治療等について、あるいは他の治療方法について、納得されるまで十分な説明を受ける権利があります。

★個人情報保護の権利

診療の過程で得られた個人情報やプライバシーが守られ、個人の尊厳が保たれる権利があります。

★診療情報の提供を受ける権利

ご自身の診療録の開示を請求する権利があります。

★検査や治療等の自己決定権の権利

検査、治療法などの選択、あるいは拒否をする権利があります。
また、セカンドオピニオンを受ける権利があります。

患者の皆様へ

- ご自分の健康に関する事を詳しく正確にお話し下さい。
- あらゆる危険を回避するために職員との連携にご協力下さい。
- よりよい医療・療養・生活環境を維持するために入院の規則をお守り下さい。





退職者挨拶



お世話になりました

平成27年4月から3年間、入所者の皆様、職員の皆様には大変お世話になり、感謝の気持ちで一杯です。無事、定年を迎えられたのも皆様のお陰だと思っております。大学卒業後、多磨全生園に就職し、以後38年間16施設を転勤してまいりました。最後の施設が、奄美和光園だった事も何か不思議な縁を感じています。

正直な話をしますと、奄美と内示を受けたとき「離島」という二文字が頭に浮かびました。心配を抱え赴任しましたが、海・山・空の美しさ、そして暖かい風土、その風土に育まれた人々（入所者・職員）の優しさに、「奄美は素晴らしい」と実感しました。

まだまだ、奄美で生活したいと思いますが、年老いた両親と老犬が実家で待っておりますので、退職後は鹿屋市で生活します。もう60歳定年。ですが、まだまだ60歳という気持ちで第二の人生を過ごしたいと思います。

お近くにお越しの折は、是非お声をかけて下さい。黒糖焼酎はありませんが芋焼酎で歓迎致します。

平成30年度は工事等が集中し、慌ただしい年度になるかと思いますが、皆様、お身体くれぐれもご自愛下さい。本当に世話になり有り難うございました。

事務長 八代 祐二

定年を迎えて

昭和56年5月佐賀病院に賃金職員として採用になり、約37年経って今年3月定年退職を迎えることになりました。その37年間、国立病院やハンセン病施設を含め11施設を異動しました。その最後の施設が、奄美和光園に決まり、『奄美はどんな所だろう』と不安に思いながら、転勤して2年経ちました。

振り返ると、入所者を含め、奄美の人達はやさしく温かい人ばかりの中で、私自身もひとり住むには広い官舎に住まわせて頂き感謝しています。

ある人から奄美はハブがいるから草を刈

らないでいるとハブが寄ってくるよと言われ怖くなり、草を刈らねばと思い、奄美生活2年間は楽しく、草刈りに専念しました。そのお陰で、草刈り機はプロ級になったと自負しております。将来は、老人の人材派遣会社に就職して、草刈りをして働いてもいいかなと思っております。

最後に、皆様のご健康とご多幸を心からお祈りいたします。本当に2年間ありがとうございました。

薬剤科長 黒瀬 立稔

定年退職を迎えて

平成30年3月をもちまして、定年を迎える事になりました。

和光園に入職して早35年余りのナースのお仕事。振り返ってみますと、進路を決める中学生の頃、愛読していた週刊少女フ

レンドの雑誌に、5歳の男の子が交通事故に遭い、病院へ搬送。手術をして数日後リハビリ開始。退院の日はその子の両親と病棟スタッフが喜びを分かち合うシーンに感動し、『大人になったら、看護

婦さんになりたい』という思いが強くなりました。

大島青松園・多磨全生園の看護学校へ入学し、二つの療養所を経験後、全生園に勤めて3年程で奄美へUターン。医師会病院に1年5ヶ月程勤務し、当園に入った頃は正面玄関前の泰山木の白い大きな花が咲いていました。その頃は、園内を歩いているとテル（竹籠）を背負って畑に向かう女性の入所者にすれ違ったり、訪舎すると不在の方が多く畑やゲートボール場に行かないと会えない状況でした。一般舎レクリエーションに参加される方も多く、入所者手作りの弁当をご馳走になったり、若い頃の話の聞いたりして楽しいひと時を過ごした事が今では懐かしく思い出されます。

また、長い看護師生活で30代の同僚が突然の病で2名亡くなった事に、無念の思

いを抱き、人の命の尊さを痛感しました。沢山の方々との関わりの中で、若かりし頃の自分の姿も思い出されます。和光園に入って結婚、4人の子供を出産し、仕事と家事の両立は、時間に余裕がない日々？今思えば、この歳までナースのお仕事を続ける事ができたのは、今は亡き両親や、家族そして入所者や職員の方々の励ましの言葉や笑顔等々の支えがあったからと感謝の気持ちで一杯です。

入所者や職員の皆様、本当に長い間お世話になりました。これからも毎日笑顔で、楽しみを見つけ健康に気をつけながら、生活できたらと思っています。最後に皆様のご健康とご多幸をお祈り致します。

治療棟看護師 榮 あさえ

定年退職にあたって

平成元年に入職以来、30年弱、奄美和光園にお世話になりました。今振り返ると日々の生活の中、仕事をする上であっという間に時が流れすぎていきました。

園内には小川が流れ、野鳥が飛び交い、奄美固有の木々が花を付ける豊かな自然の中で仕事が出来たことは、“なんて幸せなことか！”とあらためて感じています。また、今は亡き入所者の皆様や、ご健在の入所者の皆様、職員の諸先輩の方々には多くのことを教えてもらい、言葉では言い尽くせないほどお世話になりました。この場を借りて心から感謝を申し上げたいと思います。

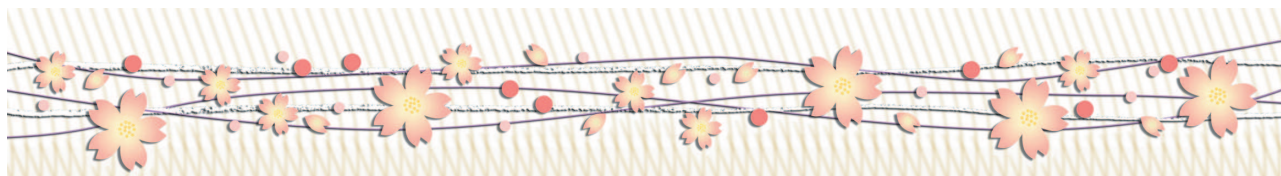
私事ですが、図体が大きく、声も大きく、

態度もでかく、何一つ和光園には貢献できませんでした。元気だけが取り柄で、今までお仕事をさせていただき入所者の支援をさせていただきました。

「ありがとう」～世界で一番美しい言葉～と何かの本で見たことがあります。私も入所者から言われたときの感動は今でも心の片隅に残っています。今後は未定ですが一人間として、誰からも“世界で一番美しい言葉「ありがとう」”を言われるような日々を過ごせたらと思っています。

本当にありがとうございました。

治療棟介護長 久永 あや子



新人紹介



事務長 横山 嘉雄 (よこやま よしお)

この度、4月1日付で、事務長として赴任して参りました。前任地は、当園と同じハンセン病療養所である星塚敬愛園です。当園で8施設目となります。

出身は宮崎県です。九州のなかでも温和な県民性で、私の性格も少しのんびりしたところがあります。奄美大島は公私を通じて初めての地ですが文化や歴史それに豊かな自然に圧倒されています。これから職員の皆様とともに、入所者の方々が安心して穏やかな生活が出来るように努めてまいります。どうぞよろしくお願い致します。

薬剤科長 楠原 哲也 (くすはら てつや)

4月1日付で福岡病院から薬剤科長として赴任しました楠原哲也と申します。出身は福岡県の宗像です。

鹿児島県の施設は幾つか経験しましたが、奄美大島は初めてです。自然豊かで海がきれいな事に驚きました。少しずつ島内を散策していきたいと思っています。

ハンセン病療養所は星塚敬愛園で勤務した事があります。早く奄美大島の生活に慣れ、入所者の皆様のお役に立てるよう頑張って参りますので、よろしくお願い致します。



副総看護師長 谷村 優子 (たにむら ゆうこ)

南九州病院から昇任で参りました。鹿児島県出身ですが、今回初めて奄美大島の地に降り立ちました。転勤が決まってから聞く話はハブのことしかなく、どんな土地かとドキドキ感満載でしたが飛行機から見る島影、海の色で一瞬にしてわくわく感に変わりました。仕事は皆さまに教わる事が多くご迷惑をお掛けするかもしれませんが、少しでも早く和光園の皆さまの力になれるよう励みたいと思います。よろしくお願い致します。

不自由者棟 看護師長 山本 農 (やまもとみのり)

皆様はじめまして。宮古南静園から看護師長昇任で転勤して来ました山本です。これから看護師長としての仕事を一日も早く覚え、入所者の皆さまの生活を支えられるようがんばります。奄美大島は海の美しさだけでなく、山々の緑が美しく気温が低いのでうれしく思っています。魚釣りなどアウトドアが趣味なので、ハブは怖いですが奄美大島の自然を楽しみたいと思います。また園内の行事にも積極的に参加しますので、入所者の皆さまでどうぞよろしくお願い致します。



診療放射線技師長 吉元 靖 (よしもと やすし)

今年度4月1日付で、琉球病院より転任になりました吉元靖と申します。沖縄出身のため、まだ奄美のことがよくわかっていません。

前任の大城技師長の事業を引き継ぎ、さらなる発展を求めて精進してまいります。大型医療機器整備や入所者の接遇向上などに力を注いでいきたいと考えております。ご理解いただきご協力をお願いします。

皆様からのご意見をいただきながら任務を遂行していきますので、今後ともご指導宜しくお願い致します。



栄養係長 青堀 尚子 (あおほり なおこ)

星塚敬愛園より栄養係長として参りました。好きな言葉は「猪突猛進」、趣味は手芸と初心者ですが空手です。和光園には平成12年に栄養士として採用していただきました。島を離れて15年、NHO福岡病院、星塚敬愛園と勤務しながら三人の子供を必死に育ててきました。これまで入所者の皆を始め、他職種の方々にも支えられ現在の私があると思っております。皆様に喜んでいただけるお食事の提供に努めますので、どうぞよろしくお願いいたします。

作業療法士 中里 あゆみ (なかざと あゆみ)

皆様こんにちは。この度、4月1日付けで、佐賀県の肥前精神医療センターから参りました作業療法士の中里あゆみと申します。出身は奄美市名瀬です。高校卒業後、約10年ぶりに奄美へ帰ってきました。学生の頃から、作業療法士として島で働くことが夢だったので、とても嬉しく思っております。

好きなことは、体を動かすこと（水泳とソフトボールをしていました）、音楽を聴くこと、食べることです。

作業療法士として未熟者ではありますが、入居者の皆様が、より良い生活を送れますようお手伝い出来ればと思っております。また、和光園のことや奄美のことなど、知らないことがたくさんあるので、教えて頂けると嬉しいです。どうぞ、よろしくお願い致します。



庶務係長 神寄 祐一 (かんだき ゆういち)

この度、4月1日付で庶務係長として赴任してきました。

こちらに赴任するにあたり、フェリーで一晩過ごしこちらに着いたのは午前4時半頃でした。行程が夜間であったこともあり寝ていたことと、まだ、あまり出て回っていないこともあり、離島の施設に赴任した実感がありません。

仕事のことは別として、奄美大島及び周辺の自然などを大いに楽しみたいと考えております。ただし、蛇（ハブ、マムシ）との関わりはなんとか逃れたい所です。

入所者、職員の皆様、迷惑をかけないように取り組んでいきますので、よろしくお願い致します。

**医事係長 津下 徹 (つげ とおる) 【優しさに飢えた男】**

1962年、東京オリンピックの2年前にこの世に生を受け。

2018年、再びの東京オリンピックの2年前に奄美和光園に赴任することになりました、華やかな舞台とは縁もゆかりもない路傍のデブ。そう、それが私であります。

幼い頃から夢だとか希望だとかといったものとは距離を置き、志を果たすことこそが己が道と、懸命に生きて参りました。

少々時代がかった暑苦しい男ですが、皆さんどうかよろしくお願いいたします。



節 分



病棟では節分の豆まきに入所者5名の参加がありました。女性職員が扮した逞しい(笑) 赤鬼と青鬼が「ウォー！鬼だぞー！」と雄たけびをあげながら登場すると、入所者は豆に見立てた紙ボールをまき「鬼は外！福は内！」と見事鬼退治していました。目が見えにくい入所者の一人は状況を説明すると「はははっ」と笑って「えいー」と手を突き出し豆まきのポーズをとったり、普段神経痛で手の痛みがある方が大笑いしながら紙ボールを投げ、「楽しかった。鬼退治ができた。」と喜んでおられました。中には鬼を見て「男かい？女かい？」と言いながら笑顔で楽しめる方もいました。また、よく足の痛みを訴える方は「鬼をやっつけらんば！」と笑顔をみせ一生懸命紙ボールを投げておられました。みなさんしっ



かりと厄除けをされ、この一年の「福」を呼び込むことができたことを大変うれしく思います。また来年も笑顔で過ごせ、一緒に豆まきができることを願っています。

病棟看護師 篤 朝子

緋寒桜も満開の2月2日、ゆらいの郷では一足早い節分の豆まきを行いました。当日食堂ホールに入所者と職員が勢揃いし、その時を今か今かと楽しみに待ちました。時間通り、静寂を打ち破り登場した鬼たちに向け、掛け声も高らかに「鬼は外、福は内」と叫びながら渾身の力を込め手にした豆を投げると鬼も堪らず退散し、今年

の節分の豆まきも無事終了。会場は笑いに包まれ、参加者の周りには笑顔と福が溢れ、今年一年の幸せが約束されました。最後に鬼に扮していただいた2名の方々、寒い中、痛い中、耐えていただき、ありがとうございました。

不自由者棟介護員 日置 清澄

2月3日の節分を1日早い2月2日午後より行いました。

天候にも恵まれ、鬼役2人と豆まき担当に分かれ、一般舎に出向きました。中には休憩されている入所者もいて、突然の鬼の訪問に驚かれていた様子でしたが、すぐに状況が分かり、元気よく鬼へ向かって「鬼

は外、福は内」と言いながら豆をまいていました。

入所者の皆様に福がまわってくことを祈りつつ、節分の行事は無事終了しました。

治療棟介護員 作下 志信

お花見会

平成30年 2 月 1 日11時よりお花見会を開催しました。例年この時期は肌寒い日が続いているため入所者の体調管理を優先して近年は室内（あすなろホール）で行っている状況です。今年も室内開催のため少しでも花見の雰囲気味わえるように事前に園内の緋寒桜をカメラで納めたそのスライドを見ながら楽しんでいただきました。

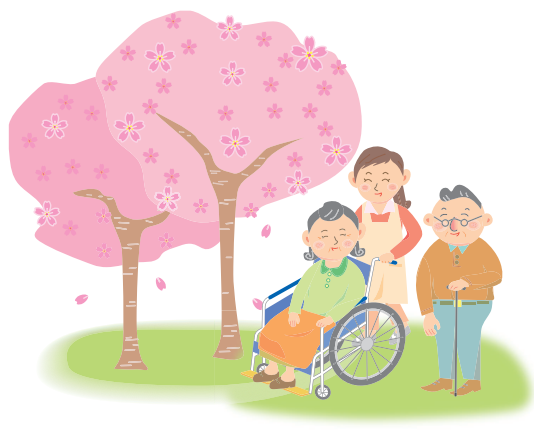
園長の挨拶と乾杯の後、余興がはじまり、4名の入所者の方から「人生一路」、「孫」、「別れの入場券」、「人生は花ごよみ」の曲をご自慢の歌声でそれぞれ披露していただき、会場内からはたくさんの拍手がわき起こりました。続いて看護課職員から「白衣に牛牛っとお肉と愛情を詰め込んだ娘たち」の演題で「ワイド節」を歌と踊りと太鼓で華やかに盛り上がり、奄美市立朝日中学校生徒（職場体験学習参加）さんと職員共演での「恋するフォーチュンクッキー」によって会場内を明るくフレッシュな気持ちにさせていただきました。

そして余興の後は、全員でいっしょにお弁当を食べながら楽しく歓談して過ごしました。

お花見会はあっという間に過ぎましたが、春の季節を感じることできる充実した時間を過ごすことができたのではないかと思います。

末筆となりましたが、新しく生命息吹く春を迎えて入所者の皆さんがよりいっそう元気で過ごされることを心より願っております。

福祉室長 磯部 武嗣



南大島バスレクリエーションに参加して

前夜からの雨、雷で中止になるかと入所者も職員も心配していたレクリエーションでしたが、4月12日の朝になり曇ってはいたものの雨はやみ、入所者5名と共に南大島へ出かけました。

入所者の方の中には天気が良くなるようにと、てるてる坊主を作ったり、皆さんにふるまうために前日から豚足、豚骨を煮たりと楽しみにしていました。久しぶりに参加された方もおり、バスからの景色を見ながら「この川ではカニが沢山とれたよ」「この道は昔、舗装されていないデコボコ道でバス酔いする人がいて宇検に着くまでに何回か休憩しながら行ったよ」「下の道を通っていた時は道路幅が狭くて大型車と対向する時は大変だった」等話もはずんでいました。住用を通り湯湾岳スミヨウ ユワンダケに向いましたが昨夜の雨でがけ崩れがあり、全面通行止めとなっていたため、楽しみにしていたソメイヨシノは残念ながら見る事ができませんでした。

峰田山公園に到着し宇検村の集落から聞こえてくる12時を知らせる音楽を聴きながらの昼食となり、そこから見えるピンクや赤色のツツジが咲き誇り「綺麗だね」と



という言葉があちらこちらから聞こえてきました。また、「あそこは枝手久島エダテク？あそこの集落はどこ？」「あそこは名柄サネン、あそこは佐念ヘダ、平田は隠れて見えないね～」等話されながらお弁当や差し入れの食事を頂きました。ツツジの咲いている公園まで散歩に行き記念撮影をしたり、お昼寝をしたりと、それぞれに楽しまれていました。

帰りは天気も良くなり綺麗な大和村の海を眺めながら帰園しました。少し疲れた様子もありましたが、皆様、笑顔で戻ることができました。長い時間お疲れ様でした。



治療棟介護員

中山 照美



施設訪問の感想文

(奄美市立朝日中学校2年生より)

あか つか しょう
赤塚 将

11月17日に和光園を訪問した際には、僕たちのためにハンセン病のことについていろいろと教えてくださり、ありがとうございました。僕は、最初はあまりハンセン病のことについて知らなかったけど、学校でハンセン病のことについてビデオを見たりして、ひどい差別を昔はしていたんだと分かって、とても悲しくなりました。そして、和光園に行って学校で学んだことを考えながら見学をしたり、話を聞いたりしました。和光園にはまだ、

元患者の方々も住んでいて、その住宅には様々な工夫がされていることに気がしました。一つ目は、ゴミ箱の取っ手に木の棒がついていて開けやすくなっていて、二つ目は蛇口の部分が回しやすくなっていたことです。また、話を聞いて分かったことが、ハンセン病はあまり感染力が強くないのに昔は、ひどい差別を受けていたことです。これからはハンセン病のことについて学んで理解していき、このようなことがないように一人一人が知り、もっと話し合っていかなければならないと思いました。

はら ゆい な
原 優衣菜

先日は、いろいろと話を教えてくださって、ありがとうございました。ハンセン病でたくさんの人が差別に苦しんだということを知って、私はとても悲しくなりました。ハンセン病という病気でも苦しんでいるのに、たくさんの人たちから差別的な扱いを受けて、本当に苦しかった

だろうと思いました。元ハンセン病の患者の方々の中には、亡くなっても身内に遺骨が渡らない人がいると聞いて、私は亡くなっても家族に会えなかったらとても悲しいと感じます。これらのことから、私は絶対に差別をしてはいけないと思いました。ハンセン病のことについて多くの話を聞かせていただき、本当にありがとうございました。

つく い る な
津久井 月奈

先日は、私たちに和光園について教えてくださって、ありがとうございました。私たちは和光園を訪問する前に、ハンセン病のことについて少し学習していたのですが、実際に見学したり、話を聞いてみるとハンセン病がどのような病気であ

ったか、周囲の人たちからどのような差別を受けていたのか、ハンセン病は感染力が弱く、治せる病気であることなどを詳しく知ることができました。このことから私は、これからは差別ではなく、優しさをもちたいと思います。

とく たけ なな み
徳武 七海

先日はお忙しい中、私たちのためにハンセン病について教えてくださり、ありがとうございました。私は、この訪問を通して、驚いたことが一つありました。それは、ハンセン病について語る方がい

ないということでした。偏見や差別というつらい思いをした方々が、年々少なくなっているという状況で、ハンセン病について学んだ私たちが広めていき、ハンセン病問題をみんなが忘れないようにしていきたいです。

なかだ いおな
中田 伊緒奈

先日は、私たちにハンセン病について教えてくださり、ありがとうございました。ハンセン病は、らい菌というとても感染力が弱く、非常にうつりにくい病気にもかかわらず、強制的に患者さんを隔離して、見た目などの偏見・差別を受け、長い間、苦しみ続けていると聞いて、とても悲しい気持ちになりました。私たち

あかつか りゅういちろう
赤塚 竜一郎

11月の中旬に僕たち2年生は和光園を訪問しました。事前授業でハンセン病についての映像を見ました。その映像には、ハンセン病で目や手先の感覚がなくなり、舌で点字を読んでいる人の写真や当時の映像が出てきました。僕はそれを見たとき、とても怖いと思いました。今では、医療が発達してハンセン病は治せる病気となっています。しかし、昔は「らい菌」と恐れられ、自分が発病する

の身近には、和光園というハンセン病の療養所があり、そこで元患者さんの生の声が聞けることはとてもいいことだと思います。私も、人を見ただけで判断せずに、病気の人でもそれが自分の個性だと思って、健康な人も“病気だから”と言って差別的な目で見ないで、誰もが幸せに暮らせる未来がくるといいなと改めて感じました。

と家族まで村八分のような扱いを受け、本名を隠さないといけませんでした。今ではありえないけど、昔はそうであったので怖いと思いました。今回は、その当時の話を聞けるいい機会だったと思います。今は高齢化が進み、だんだんそういったことを聞けなくなっています。この日に聞いた話は忘れないで、しっかり覚えておこうと思います。今回、訪問させていただいてありがとうございました。

職場体験学習受入

去る平成30年1月31日と2月1日の二日間、奄美市立朝日中学校2年生の職場体験学習を受け入れました。

昨年5月に他の中学校より受け入れましたが、その時は1名の三日間だったため、各職場の調整もスムーズに出来ましたが、今回は5名、しかも二日間という時間制約もあり、事前のスケジュール調整に苦慮しました。

結果、受け入れが困難な部署やあるいは受入人員制限の部署もあり難航しましたが、なんとか調整が付き受け入れることができました。受け入れる数日前に男女の割合を訊いたところ、“全員女子生徒”とのことでした。一瞬戸惑いましたが、よく考えると男女混在より現場もやりやすいのかなとの思いが。

受入当日、約束の時間に合わせて事務所

から玄関に向かうと、階段から賑やかな声が…。顔合わせする前から少し和んだ気持ちになりました。生徒達に用意した休憩室で、一通りのオリエンテーションを行ったあと、最初の職場に案内しました。その後は各職場長にお任せで!!

ところが…最初の職場で思わぬ事態が!!なんと生徒の一人が熱発してしまい、時期が時期だけにインフルエンザを疑いましたが、検査の結果は陰性で一安



心。それでもその生徒はリタイアということになりました。

入所者に関わる部署で、スケジュール通りに体験してもらいました。中でもこの二日間での最大のイベント“お花見会”にも参加してもらいました。入所者自治会からの計らいで、生徒達には弁当が用意されており、その弁当の華やかさに感激した様子でした。また入所者にも職員にも朝日中学校卒業生が多いことから、校歌のリクエストがあり、歌ってもらったところ、会場からはたくさんの拍手が送られました。生徒達はそのほかに1曲、入所者へ歌を用意しており、生徒4人で心を込めた歌を披露し

てくれました。

二日間という短い日程でしたが、生徒さん以上に職員も自分の仕事を再認識する良い機会になったと思います。後日届いたお礼文を読むと、こちらが思う以上に様々な経験をしたことが感じ取れました。未来の医療技術者を育てるというささやかなきっかけを作ってあげた…かもしれません。

庶務班長
堀口 広文



防火避難訓練（夜間体制）

去る2月22日13:30より防火避難訓練を行いました。朝から微妙な空模様であったため、雨天を予想して本部や避難場所を不自由者棟玄関ホールにしました。（実際の火事では屋外。）

今回の設定は夜間ですが、最大のチェックポイントは連絡体制でした。なぜなら昨年（平成29年）9月より管理宿日直を1人体制にしたため、災害や一般舎入所者急変時に応援までの連絡や動きがどうなるのかというシミュレーションも兼ねていました。

13:30、火付け役が熱感知器に熱を当てました。しばらくして（システム上感知器は即座に火災報知器を鳴動させない。）火災報知器が鳴動し、訓練とはいえ一気に緊張感アップです。一番に現場へ駆けつけた管理宿直者が「火事だ～！火事だ～！」と大声で隣接する一般舎に声かけをし、火元入所者をとりあえず家から外へ移動させました。その後は、当直室に駆けつけた当日の当番となっている応援者（園内宿舍入居者）に現場の情報を伝え、応援者が園内放送を行いました。（※火災報知器が鳴動した時点で、宿直者は応援者に連絡しており、その連絡で



宿直室に駆けつけて待機。）

ここからは、毎回の防火避難訓練と同じで、各担当班がかけつけ、情報収集、避難、救護等を行いました。そして鎮火の連絡を以て本日の訓練は終了。

講評でも園長が、「今回のポイントは連絡、駆けつけ体制」ということを強調しました。この避難訓練を基に、1人宿直体制で想定される様々な懸案をピックアップし、一つずつクリアしたいと考えています。



庶務班長
堀口 広文

園内合同歓迎会



新任者9名の合同歓迎会が4月6日(金)に園内のあすなろホールで開催されました。この合同歓迎会は、入所者と共に和光園全体で新人を迎え入れようと平成25年度に企画され、今回で6回目になります。

庶務班長による開始時の辞に続き、加納園長の歓迎挨拶、各新人の方の自己紹介及び挨拶がありました。事務長による乾杯の後、いよいよ開演です。テーブルの上には、郷土料理をはじめビールや奄美名物の「黒糖焼酎」が並び、入所者の方々との語らいに花を添えてくれました。

9人の新任者を、今回は入所者8名、職員48名、合計56名で歓迎しました。合計65名ともなると、あすなろホールでは狭く感じられましたが、各テーブルには笑い声があり、終始和やかな雰囲気に包まれていました。

おなかも満たされ、程良く黒糖焼酎の酔いを感じた頃、カラオケが始まりました。

楽しい時間は、あっという間に過ぎ、最後は、泉 芳朗（いずみ ほうろう）作詞、三界 稔（みかい みのる）作曲の「和光園歌」を全員で大合唱し、馬場副園長の挨拶で閉演しました。

新人の皆さんには和光園の雰囲気を感じて貰えたことと思います。先輩職員と共に和光園入所者を最後の一人まで見守り、一緒に盛り上げていきましょう。それから、お忙しい中、合同歓迎会の準備に奔走して頂いた看護課、パラメディカル、庶務課の方々、ありがとうございました。



事務長補佐
岩辻 好夫



和光園歌：泉 芳朗 作詞、三界 稔 作曲。和光園歌制定については、当園の「創立70年記念誌」P173に沖縄民謡「ワイド節」の作詞者である中村民朗（当園元放射線技師長）の「園歌随想 ー和光園歌制定に携わってー」をご覧ください。

泉 芳朗：昭和時代の教育者、政治家。戦後の昭和26年奄美大島日本復帰協議会を結成し議長に就任。120時間にわたる復帰祈願の断食をおこない、詩「断食悲願」を発表。昭和27年名瀬市長。昭和34年4月9日死去。54歳。鹿児島第二師範（現鹿児島大）卒。奄美復帰の父（奄美のガンジー）。

三界 稔：昭和時代の作曲家。奄美大島をテーマとした田端義夫歌唱の「島育ち」などを作曲。昭和36年6月13日死去。60歳。東京音楽学校（現東京音大）卒。

☆ 作業療法作品紹介 ☆

あなたの好みはどれですか？

そして、自分なりの好みの作品を作ってみませんか？

これらの作品は作業療法で作られた作品達です。どの作品も作業療法参加者一人ひとりが思いを込めて一生懸命作った物です。だからこそ、出来上がった完成作品は世界に一つしかないものとなり、どれも世界一の作品に出来上がったと私自身喜んでいきます。今後も活動を継続していきたいと考えていますので、これを見てピンときた方・私もチャレンジしてみたいと感じた方は是非、作業療法士（O.T.）にお伝え下さい。



いつでもお待ちしております。

作業療法士 中里 あゆみ

2018年 桜マラソンに参加して

緋寒桜が咲き始める季節、今年も桜マラソンが2月4日に開催されました。

当園からは私を含め5人参加し、昨年に引き続き私は15.5kmのコースを走りました。

この日の天気はあいにくの雨で気温が低く、とても寒かったです。体育館に入ると館内が埋まるくらい参加人数が多く、とても驚きました。

受付を済ませた後は、ウォーミングアップという名の屋台巡りをしながらスタート前の調整を行いました。立ち寄った屋台の焼きそばやカレーは絶品で、走るための活力になりました。

スタート10分前に雨がひどくなり、待っている間に体温が奪われていきました。

スタート数分前で雨が止み、スタート合図が鳴り響き私はスタートしました。

2km地点まで快走でしたが徐々にペースは落ちていき、途中で雨が再び降り始め

て更に体力が落ちていきました。雨と気温の影響で両腕・両足に凍てつくような寒さを感じました。そして途中でとうとう心が折れて歩いてしまいました。

序盤から孤独な戦いを強いられることとなりました。折り返し地点に来るまで雨がザアザア降りで、緩やかな坂や急な坂が連続したりして私のメンタルと体力は限界を迎えそうでした。しかし、選手達に飲料水やバナナ、塩などを配給している人たちの優しさに触れて私は「限界なんて自分が作った壁、壁なんて元々無いのだ。」とトップアスリートのように悟り、残りの距離を頑張ろうと自分を奮い立たせました。

折り返し地点を過ぎて間もない時に寒さで身体が悲鳴を上げていました。腕はガチガチに冷えて左足はつったり寒さで震えたりとの連続でリタイアしないとまずいのではないかと自問しました。しかし

配給の人たちの優しさ、ウォークマンから響いてくる“ZARDの「負けないで」”に背中を押され、見事完走しました。

去年と同じタイムで記録更新にはなりま

せんでしたが、色々な人たちの優しさに触れたのでとても楽しかったです。

研究検査科 川崎 岳史

金子万寿夫代議士来園

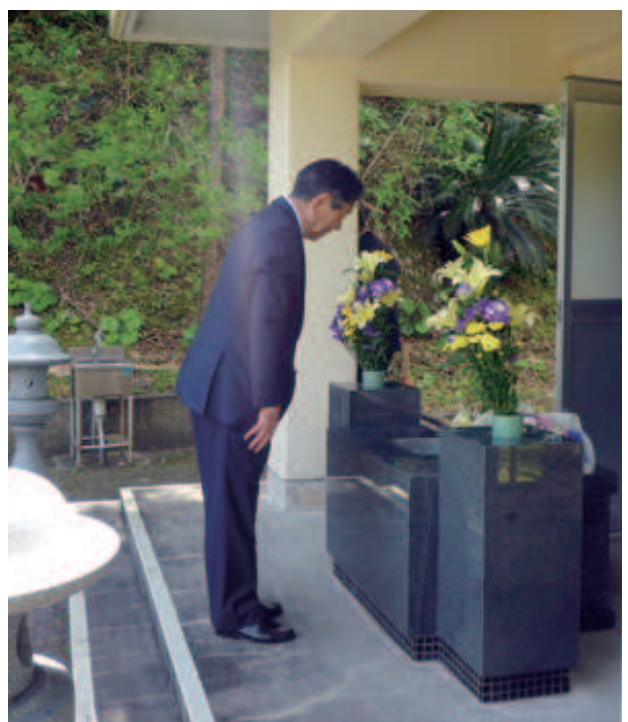
奄美和光園では新年度が始まって早々の4月2日、金子万寿夫代議士一行の訪問を受けました。代議士と一緒に来られたのは、奄美市議会の伊東議員と大島郡医師会の川畑顧問でした。訪問の目的は、和光園の現状についての視察でした。

金子代議士は、鹿児島二区選出の衆議院議員で、出身は奄美大島の瀬戸内町西古見だそうです。訪問前日に地元へ帰った後、東京へ戻る途中で和光園に立ち寄って下さいました。代議士の訪問に先立って本省からも連絡があり、入所者自治会の山田さんと園の幹部四人で出迎えました。常日頃から、地域の中の和光園という位置づけでありたいと願っていますので、訪問を大変嬉しく思いました。

代議士一行は、午後1時に和光園に到着され、直ちに納骨堂で献花をされました。和光園で亡くなられた御霊に対し、深い哀悼の意を表されました。その後、多目的ホールに場所を移し、金子代議士を囲んで意見交換会が開かれました。山田さんからは、訪問のお礼に引き続き、沖縄で4月に行われた全国支部長会議の議題を紹介し、それに対する和光園の、現状についての説明がありました。これに対して代議士も大きくなずきながら耳を傾けておられました。また、その後は山田さんへいくつか質問があり、最後

は励ましの言葉をかけて下さいました。

山田さんが途中で退席した後、園長から和光園の概況について説明を行いました。この中で和光園の歴史や入所者数の推移、これからの課題についても話をしました。また、入所者の意向を中心に据えて、変わらぬ環境の中で生活するためには、地元の理解と協力が欠かせないこと、将来のことについても入所者の意見を尊重しながら、地元の合意を作り上げることが一番大切であることを説明しました。伊東議員、川畑顧問からも和光園に対して建設的な意見が出され、代議士は時折メモを取りながら真剣に聞いておられました。



最後に、入所者数の推移を見た感想として代議員からは「時間的な猶予がどれぐらいか理解できました」との言葉がありました。厚労省の協力が得られるように、地元の合意、特に医師会との情報交換に理解を示してもらいたいという言葉

で終了しました。

地元の方々と顔を合わせて意見交換をすることができ、大変有意義な視察になったという印象を持ちました。

園 長 加納 達雄

「ふるさと、奄美に帰る」展に寄せて



2年越しの夢だった「ふるさと、奄美に帰る」展を、奄美文化センター（3/10～31）、国立療養所奄美和光園（4/3～10）、田中一村記念美術館（4/20～5/13）の3会場で開催することができました。

国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ金陽会の10名の方が残された作品は850点あまり。その中には、遠く離れた故郷や家族を想って描かれた作品が少なくありません。メンバーの大山清長さん、奥井喜美直さんは奄美大島ご出身で、それぞれ故郷の風景を描かれていました。大山さんの描く名瀬の立神や奥井さんの描く蘇鉄を、ぜひ奄美大島の皆さんに観て欲しいという願いは奄美文化センターで叶っ

たように思います。

奄美和光園では、入所者の皆さんに菊池恵楓園の療友が描いた作品を観ていただきたい、そのために、車いすで観やすい位置に展示できるよう、小さめの作品を展示することを念頭において作品を選びましたが、文化センターでの展示の際に観に来られた方が、100号サイズの作品の大きさに驚かれていたので、奄美和光園の入所者の方にも観ていただこうと、急遽奄美和光園でも展示することにしました。そして奄美和光園に縁のある三人の人物、小笠原登医師と画家田中一村の絵や資料を紹介することで、入所者の方にお話しが聞ければいいなと思ったこと、奄美和光園でレントゲン技師として勤務されていた中村民郎さんが入所者に依頼されて作詞された、徳之島の闘牛のことを唄った「ワイド節」を入所者の皆さんに聴いていただくこと、これらも奄美和光園で開催させていただくことで全て叶えることができました。

4月3日のオープニングでは森山三味線教室の皆さんが「ワイド節」の演奏で華を添えてくださったのですが、入所者の女性が演奏の終盤に踊りだされて、聞けば徳之島ご出身の方とのこと。その光景が見られたことは大きな褒美をいただいたようで

した。

奄美和光園の入所者数は24名とお聞きしました。菊池恵楓園でもいずれそうになっていくことを考えると、今のうちに金陽会のメンバーのことをご存知の入所者の方から、いろんな話をお聞きしておかなくてはならないなあという思いがより強くなりました。

加納園長をはじめ、奄美和光園の皆さまのおかげで、「ふるさと、奄美に帰る」展を奄美和光園で開催することができました。心から感謝申し上げます。金陽会の絵画がたくさんの方々に観てもらえるような環境づくりに、これからも勤しみたいと思います。

一般社団法人

ヒューマンライツふくおか

蔵座 江美



NST News Letter

No.5

入所者の皆様に美味しいと言って頂けるようにと安心安全な食事提供を胸に調理師と栄養士で取り組みを行っています。今回は栄養係で取り組んでいることを紹介します。

食事が食べにくくなる理由として「高齢で噛む力が弱くなった」「義歯が合わず噛めない」「摂食嚥下機能が低下した」「年を取り食べ物の好みが変わった」「手に力が入らず食材をうまくすくえない」など様々ありますが、NSTで他職種との協力の下に、あった食形態で提供できるようにしています。主食では米飯・軟飯・特軟飯・全粥など固さが選べます。個人に合わせた、おにぎりの提供も行っています。俵型・丸形・ひと口大の俵型・ひと口大の丸形等、手に持ちやすい大きさやフォークで刺してひと口で食べられる大きさにしています。ただひと口大と言っても人それぞれ口の開き方には個人差があるので、摂取状況を確認し本人と話をしながら、食べやすい大きさにしています。副食も同じです。ひと口大サイズ、ひと口大の半分、1cm角刻み、2cm角刻み、ソフト食などありますが、こちらも本人の摂取状況や本人の思いを聞き取り、医師・摂食嚥下障害看護認定看護師・担当看護師・栄養士と他職種で関わり食形態を決めています。

嚥下機能低下によって水分の摂取が困難な方やお茶や水を好まれず結果的に水分不足になる方などへは、お茶や本人が好まれるジュースをゼリーにして提供しています。

普通の食器では食材がうまくすくうことが出来ない方は、「ユニバーサル食器」と言って食器に角度がついていて食材がすくいやすくなった食器に入れて提供しています。



もう一つ取り組んだことはソフト食（形態調整食）の改善です。以前のソフト食は視力のよい方にとっては見た目が良くなく、食欲が出ないとの問題がありました。経口摂取が減り栄養状態が悪くなった入所者へ医師・摂食嚥下障害看護認定看護師・担当看護師・栄養士で検討を行い、改善策として期間限定で摂食支援食「あいと[®]」を提供することになりました。見た目も良く味も良いので食欲が出て活気も上がり食事摂取量が増えました。そこで今までのソフト食の改善を行い、見た目で食欲が出る工夫が出来ないか検討を行いました。まずは一番若い調理師に白羽の矢を立て、参考になりそうなレシピ本を購入したりインターネットで調べたりして改善を行いました。食欲低下時は全介助で食事をされていた方が、見た目を改善したことにより自分からフォークを持ち「食べたい」との意思表示をされるようになり、食欲や摂取量の増加に繋がりました。やはり見た目とは大事なことなのだと改めて感じた事例でした。その後は若い調理師が先生になり、他の調理師に伝授して調理師全員が見た目に気をつけて調理・盛り付けを工夫するようになりました。

今後も一般食からソフト食まで色々な形態で工夫を行い「食べたい」と思って

頂ける食事作りに調理師共々、励んでいきたいと思います。

栄養士 當島 裕美



ソフト食 (以前)



一般食



一般食



ソフト食 (現在)



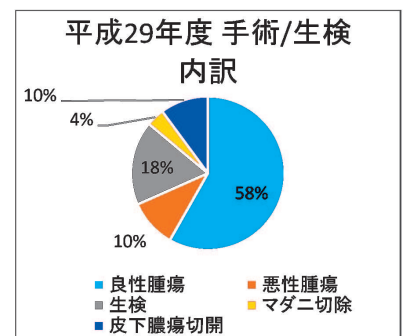
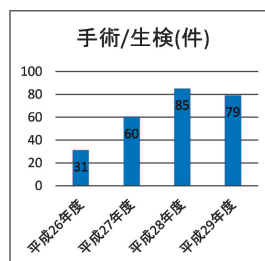
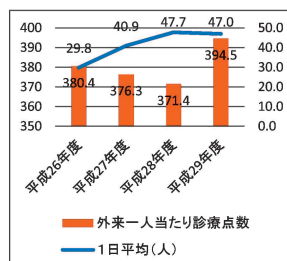
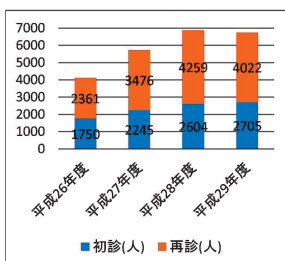
ソフト食



ソフト食

平成29年度 診療統計

	外来診療					特記		入院診療		
	初診(人)	再診(人)	合計(人)	1日平均(人)	診療実日数(日)	紫外線療法(件)	手術/生検(件)	入院(人)	退院(人)	延患者数(人)
4月	175	343	518	43.2	12	103	10	1	1	2
5月	231	359	590	49.2	12	103	5	0	0	0
6月	268	369	637	49.0	13	95	8	0	0	0
7月	266	348	614	51.2	12	94	4	0	0	0
8月	277	383	660	55.0	12	94	3	0	0	0
9月	247	346	593	49.4	12	82	5	1	1	8
10月	230	365	595	45.8	13	98	6	0	0	0
11月	187	297	484	44.0	11	72	5	0	0	0
12月	205	311	516	43.0	12	78	9	0	0	0
1月	201	296	497	45.2	11	80	9	0	0	0
2月	175	273	448	44.8	10	71	5	0	0	0
3月	243	332	575	44.2	13	76	10	0	0	0
合計	2705	4022	6727	47.0	143	1046	79	2	2	10



学会発表 第178回日本皮膚科学会鹿児島地方会 (平成29年7月23日)
・2011~2017年に当園を受診したヌカカ刺症の検討

論文発表 西日本皮膚科 第72巻第2号
Narrow-marginにて切除したBasal Cell Carcinomaの3例
日本フットケア学会雑誌 第15巻第3号
糖尿病とハンセン病後遺症の合併による難治性潰瘍を
チーム医療にて救肢しえた1例

依頼原稿 今日の治療指針2018 皮膚科疾患・ハンセン病

* 皮膚悪性腫瘍切除術内訳

Bowen病 1
有棘細胞癌 2
基底細胞癌 4
脂腺癌 1

人事異動

(平成30年2月1日～平成30年4月30日)

H30. 3. 31

八代 祐二
黒瀬 立穂
久永 あや子
永田 幸二郎
榮 あさえ
佐藤 剛
井上 清仁
大城 善栄
當島 裕美
中川 恭兵
後藤 祥子
田中 浩二
大山 志津香
横山 嘉雄
楠原 哲也
神寄 祐一
津下 徹
吉元 靖
青堀 尚子
中里 あゆみ
谷村 優子
山本 農
則岡 静香
岡崎 さつき
最上 かおり
永田 幸二郎
山口 千春
仲田 ノリ江

H30. 4. 1

事務長
薬剤科長
介護長
調理助手
看護師
庶務係長
福祉係長
診療放射線技師長
栄養士
作業療法士
副総看護師長
看護師
事務長
薬剤科長
庶務係長
医事係長
診療放射線技師長
栄養係長
作業療法士
副総看護師長
看護師長
看護師
看護師
看護助手
作業手
看護師
看護師

定年退職
定年退職
定年退職
定年退職
定年退職
NHO大分医療センターへ
国立療養所宮古南静園へ
国立療養所宮古南静園へ
国立療養所星塚敬愛園へ
NHO東佐賀病院へ
NHO都城医療センターへ
国立療養所菊池恵楓園へ
国立療養所多磨全生園へ
国立療養所星塚敬愛園より
NHO福岡病院より
NHO福岡東医療センターより
国立療養所星塚敬愛園より
NHO琉球病院より
国立療養所星塚敬愛園より
NHO肥前精神医療センターより
NHO南九州病院より
国立療養所宮古南静園より
採用
採用
採用
再任用
育児休業より復職
非常勤職員

和光園日誌

(平成30年2月1日～平成30年4月30日)

H30. 2.

2. 1 お花見会 (あすなろホール)
2. 6 施設見学 (北海道名寄市立大学教授御一行)
2. 13 厚生労働省大臣官房会計事務監査指導
2. 22 防火避難訓練
2. 23 入所者死亡 93歳女性 (25名→24名)
2. 28 施設見学 (真宗大谷派 東本願寺 秋田県奥羽教区僧侶御一行)
3. 8 医療安全実践報告会
3. 15 施設見学 (総合社会福祉研究所事務局長)
施設見学 (京都府眼科医御一行)
施設見学 (一般社団法人ヒューマンライツふくおか御一行)
3. 22 合同送別会 (奄美サンプラザホテル)
3. 28 施設見学 (熊本日日新聞社記者)
4. 2 辞令交付式
施設訪問 (金子万寿夫代議士御一行)
4. 3 国立療養所菊池恵楓園金陽会作品展オープニングセレモニー
4. 5 開園記念日
新採用者オリエンテーション
4. 6 合同歓迎会 (あすなろホール)
4. 12 バスレクリエーション (南大島・宇検村)
4. 16 施設訪問 (鹿児島法務局職員)
4. 21 施設見学 (愛知県民)
4. 24 施設見学 (真宗大谷派 東本願寺 鹿児島教区僧侶御一行)

今後の行事予定

7月26日 夏祭り / 9月13日 敬老会

編集後記

3月から4月にかけて出会いと別れがあり、寒い冬が過ぎて暖かい春を待ちわびていました。三寒四温が続き最近まで寒く感じる事が多い感じでしたが、このごろは過ごしやすくなりました。渡り鳥のサシバが、ピーピーと鳴いていた声も、春になり、北に帰っていったのか聞こえなくなりました。今年は奄美が世界自然遺産に登録されるのか、人の出入りが多くなるみたいです。

自然の多い奄美、和光園も自然が豊富で、山肌のつわぶきやら春の息吹を感じる今日この頃です。皆様も自然を感じに出かけられてはいかがでしょうか。

編集委員 窪田 理栄